

作成日 2022年4月21日

改訂日 2022年4月21日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : NSノズルバリヤ
供給者の会社名称 : 日酸TANAKA株式会社
住所 : 〒354-8585 埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢11
担当部門 : 産業機材事業部
担当部門住所 : 〒212-0024 神奈川県川崎市幸区塚越4-320-1
電話番号 : 044-549-9645
ファクシミリ番号 : 044-549-9650
緊急連絡電話番号 : 044-549-9645
整理番号 :

2. 危険有害性の要約

GHS分類

シンボル



物理化学的: 火薬類	分類できない
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

本データシートは、一般的な工業的用途について、「製品の適切な取扱い」を確保するための参考情報として提供するもので、製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並び測定等に基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願い致します。

健康に対する有害性

警告 眼刺激

【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

データなし

【廃棄】

データなし

3. 組成及び成分情報

単一化学物質又は混合物の区別：混合物

化学名又は一般名	含有率%	化審法番号/安衛法番号	C A S 番号
ペトロラタム	85～95%	9-1692	8009-3-8
パラフィンワックス	5～10%	あり	64742-54-4

4. 応急措置

吸入した場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状 データなし

最も重要な兆候及び症状 データなし

応急措置をする者の保護 データなし

医師に対する特別注意事項 データなし

5. 火災時の措置

消火剤 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤 棒状放水

特有の危険有害性 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

激しく加熱すると燃焼する。

本データシートは、一般的な工業的用途について、「製品の適切な取扱い」を確保するための参考情報として提供するもので、製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並び測定等に基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願い致します。

特有の消火方法	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、全ての着火源を取り除く。	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化方法・機材	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	
局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	眼に入れないこと

保管

技術的対策	データなし
混触危険物質	消防法の規制に従う。
保管条件	データなし
容器包装材料	容器を密閉して冷乾所で保管すること。 データなし

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
日本産衛学会（2007年版）	3mg/m ³ （鉱油ミストとして発がん物質）
ACGIH 未設定	
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と 安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

本データシートは、一般的な工業的用途について、「製品の適切な取扱い」を確保するための参考情報として提供するもので、製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並び測定等に基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願い致します。

保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策		取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状	ワックス状ペースト
	色	緑色
	臭い	無臭
	臭い pH	データなし
融点・凝固点		38～54°C : Merck (14th, 2006), HSDB(2001)
沸点、初留点及び沸騰範囲		302°C : ICSC (2002), ICSC(J) (2002)
引火点		182～221°C : ICSC (2002), ICSC(J) (2002)
自然発火温度		>290°C : ICSC (2002)
爆発範囲		0.9 ～ 7 vol.% (空気中) (推定値) : ICSC (2002), ICSC (J) (2002)
蒸気圧		<1.3Pa (20°C) : ICSC (2002)
蒸気密度		データなし
蒸発速度		データなし
比重 (密度)		0.820～0.865 (60°C,25°C) : Merck (14th, 2006), HSDB(2001) 0.9g/cm ³ : ICSC(2002), ICSC(J) (2002)
溶解度		水 : 不溶 : ICSC(J) (2002)
オクタノール		・水分配係数log P > 6 : IUCLID (2000)
分解温度		データなし
粘度		データなし
粉じん爆発下限濃度		データなし
最小発火エネルギー		データなし
体積抵抗率(導電率)		データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし

本データシートは、一般的な工業的用途について、「製品の適切な取扱い」を確保するための参考情報として提供するもので、製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並び測定等に基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願い致します。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	データなし
	経皮	パラフィンワックス (CAS No.8002-74-2)との混合物(50/50)では、ウサギのLD50値3600mg/kg bw (IUCLID (2000))、である。
	吸入	吸入(ガス)： 半固体 (semi solid (Merck (14th, 2006))) である。 吸入(蒸気)： データなし 吸入(ミスト)： データなし
皮膚腐食性・刺激性		Patty (5th, 2001)で刺激性はなく皮膚試験のvehicleとして使用されるとの記載がありことから区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性		ウサギにおいて、評価結果「slightly irritating」である(IUCLID, (2000))より区分2Bとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性		呼吸器感受性：データなし 皮膚感受性：ヒトにて、評価結果「notsensitizing」(IUCLID(2000))反復ばく露により皮膚炎(dermatitis)はみられたが感受性ではない(IUCLID(2000))、およびアレルギー性はなく、皮膚試験のvehicleとして使用される(Patty(5th,2001))の記載がある。以上の結果から区分外とした
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		ラットの混餌試験(FDRL, about 3000mg/kg/day)において、白色物質2例および黄色物質1例(精製度の違い)にて発がん性は認められない(EHC20 (1982))。マウスの経皮投与試験(80週間, 25 and 50mg)にて、発がん性は認められなかった (IUCLID (2000))。Pattyでは、精製度の高い物質の発がん性は殆どまたは認められないの記載がある(Patty (5th, 2001)) EU分類においては、「精製度の低いもの(黄色、琥珀色、茶色ワセリン)は、工業用として使われ、発がん性の多環式芳香族を含むことがある。」に基づき、Cat.2(区分1B相当)である(EU-Annex I (access on 9. 2008))。以上の結果、精製度の低い黄色物質に関する情報が十分に得られないことから分類できないとした。
生殖毒性		データなし
特定標的臓器		ウサギの皮膚試験(24時間ばく露, 4ml/kg)において毒性症状(剖検における異常または全身への作用(systemic effects))は認められないが、試験物質がparaffin wax(CAS No.8002-74-2)との混合物(50/50)である(IUCLID (2000))。得られた情報はこの1試験およびマウスの皮下投与試験(IUCLID (2000))のみであり、データ不足で分類できないとした。
・全身毒性		
(単回ばく露)		
特定標的臓器		ラットの混餌試験(FDRL, 2年間, about 3000mg/kg/day
・全身毒性		(90日補正24000mg/kg/day))において、白色物質2例および黄色物質1例
(反復ばく露)		(精製度の違い)にて、毒性症状(行動、死亡率、血液項目、尿および臓器組織)に異常は認められない(IUCLID (2000))との記載より経口経路では区分外相当であるが、他経路の情報がなく分類できないとした。

本データシートは、一般的な工業的用途について、「製品の適切な取扱い」を確保するための参考情報として提供するもので、製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並び測定等に基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願い致します。

吸引性呼吸器有害性 データなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性 データなし

水生環境慢性有害性 データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、に従って適切な処分を行う。関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制 海上規制情: 該当しない

航空規制情: 該当しない

UN No. 該当しない

国内規制 陸上規制情: 消防法の規制に従う。

海上規制情: 該当しない

航空規制情: 該当しない

特別安全対策 移送時にイエローカードの保持が必要。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

1 5. 適用法令

消防法 指定可燃物、可燃性固体類
(法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4)

1 6. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。

本データシートは、一般的な工業的用途について、「製品の適切な取扱い」を確保するための参考情報として提供するもので、製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並び測定等に基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取扱い等の実態に応じた適切な措置をお取り下さるようお願い致します。